

1. そもそもゲルマンとは何か?
2. イングランドの『ベオウルフ』
3. 竜殺しのジークフリート:シゲムンドとシグルズル
4. 伝説の鍛冶ウェーランド:エッダ詩 『ヴォルンドルの歌』とその足あと

「ゲルマン」の英雄 = 勇猛果敢な戦士?

第二次世界大戦時:ドイツ軍に利用されたイメージ

20世紀初頭:大英帝国として世界中に広がった自分たちのルーツを宣伝

19世紀:ロマン主義時代の人々が、中世主義の理想化した姿にイメージ

17、18世紀の啓蒙の時代:西ローマを滅ぼしたゴート人への評価

タキトゥス(55年頃～120年頃)の著書『ゲルマーニア』!

「けれども、ゲルマーニアという呼び名は・・・ごく最近になって、新しく付け加えられたものである。なぜというに、ゲルマーニア人の中で、いちばん始めに、ライン河を渡ってきて、ガッリアの住民を撃退した部族は、今でこそトゥングリー族と呼ばれているが、その当時は、ゲルマーニア族と呼ばれていたのである。そういう次第で、民族の名前ではなく、単に一部族の名前が、次第にはばをきかすようになった。こうして、ゲルマーニア全土の部族が、始めはガッリアで勝利を収めた一部族によって、恐怖心から、『ゲルマーニア人』と呼ばれたのに、その後には、全部族がすすんで、この偽りの名前を採用し、『ゲルマーニア人』と自称するに至ったのである」(タキトゥス『ゲルマーニア』 第2章「ゲルマーニア人の起源」泉井久之助訳 世界古典文学全集 22, pp. 354-55)。

「ゲルマーニア人にとって、歌謡は、記憶を伝えたり、記録を保存したりするただ一つの方法である」(『ゲルマーニア』第2章 泉井久之助訳 世界古典文学全集 22, p.354)。

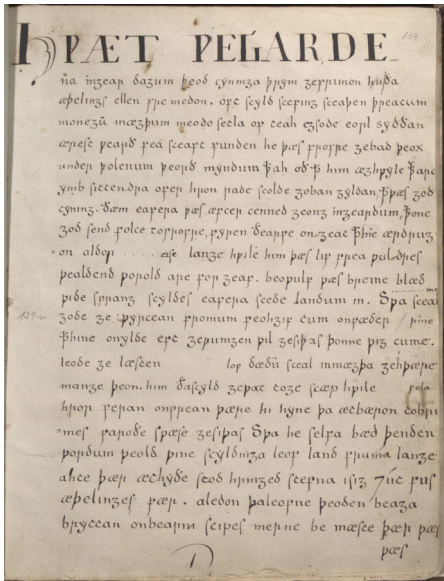
しかし、そもそもゲルマーニアとは何でしょうか?

英語の German ← 比較的新しい言葉。英語最大の辞書『オクスフォード英語大辞典』第2版の定義によれば、英語の German は、16世紀以来の言葉とされる。

「中央ヨーロッパおよび北ヨーロッパに住む人々の親族集団の呼び名。特に、そこから派生した言語として「ゲルマン語派」に属する言語を話す人々。」

「ドイツの学者ミュレンホフによれば、北東ガリアに住むケルト人の部族の名前だったのが、そこを占領したゲルマン人の部族名に替わり、それがゲルマン人の総称となったとされる」

◎「ゲルマーニア人にとって、歌謡は、記憶を伝えたり、記録を保存したりするただ一つの方法である」(『ゲルマーニア』第2章 泉井久之助訳 世界古典文学全集 22, p.354)。



<イングランドの『ベーオウルフ』>

HWÆT WE GAR-DENA in geardagum
þeod-cyning þrym gefrunon,
 hu ða æþelingas ellen fremedon.
 Oft Scyld Scefing sceapena þreatum
 monegum mægþum meodosetla ofteah
 egsode eorlas --syððan ærest wearð
 feascraft funden. He þæs frofre gebad,
 weox under wolcnum, weorðmyndum þah.
 oð þæt him æghwylc þara ymsittendra
 ofer hronrade hyran scolde,
 gomban gyldan. Þæt wæs god cyning!

何か！ 2 我らは2 槍のデネたちの2 2 古の日々の2
 民の王の2 勲しを2 聴いた2
 いかにか2 当時2 高貴な者らが2 勇気を示したかを。2
 たびたび2 シェーフの息子シュルドは2 敵どもから2 恐れを持って2
 多くの国から2 その蜜酒（ミード酒）の席を2 奪った2
 武人らを恐れさせた2--それは初めには2
 寄る辺なく2 見つかった後のことであった。2 彼は慰めを受けた2
 群雲の下に成長し、誉れをもって栄えた2
 ついに2 彼に2 周りに住む者らの誰も彼もが2
 鯨の路を越えて2 彼の命令を聞かねばならなくなった2
 貢ぎを払わねばならなかった。2 2 かの者こそ2 良き王である！2

・伝説の英雄: シェーフの息子シュルド (Scyld Scefing)

英語の sheaf = (麦の穂の) 束

11世紀の年代記者ウィリアム・オヴ・マームズベリ (William of Malmesbury; c.1090-1143) の記録

・【『ベーオウルフ』の映画】

Beowulf (S4C / Christmas Films, 1998年) Yuri Kulakov, dir.

『13ウォリアーズ』(*The 13th Warrior*; Touchstone, 1999年) John McTiernan, dir. (主演 アントニオ・バンデラス)

『ベオウルフ』(*Beowulf & Grendel*; 2005年) Sturla Gunnarsson, dir. (主演 ジェラルド・バトラー)

『ベオウルフ: 呪われし勇者』(*Beowulf*; 2005年) Robert Zemeckis, dir. (主演 レイ・ウィンストン)

< 竜殺しのジークフリート(シゲムンドとシグルズル) >

『ベーオウルフ』より

また時には物語を嗜み、古き口碑数多、夥しき数々を心に留めし誉れ高き人、王の上士は真に相連なりたる他の言葉を見出しき。その人は又ベーオウルフの征旅を思慮持て語り、相応しき物語を巧みに語り、語に変化をつけむと試みたりしなり。彼がシゲムンドの武勇の業の数々に就きて噂に聞き及びしこと、知られざりし事どもあまた、ウェルスの子(シゲムンド)の戦、遠き旅のかずかず、不和、罪業一彼(シゲムンド)と共にありしフィテラのほか人の子のたえて知ることなかりしことの凡てを語りき。その頃叔父なる彼はおのが甥にかくの如きことを語らむと思ひしなりき。何となれば、彼らはいづれの戦に於いても常に苦境の朋なりければなり、巨人の族を数多剣もて斃したりしなり。戦の勇者(シゲムンド)が宝の主なる竜を殺してよりは、シゲムンドには死後大いなる誉れ挙がりき。彼、英雄の子は灰色なる石の下へ唯独り大胆なる行いを冒しに入りしなり。フィテラは彼と共にあらざりき。されど彼に取りては幸いにもかの剣は驚くべき竜を刺し通すこととなりぬ。さればその貴き剣は岩壁の上に確と立てり。竜は殺害に斃れぬ。英雄は武勇もて、己が意の俣に宝物を用い得る機会を齎したりしなり。ウェルスの子は船の懐に輝く飾りの品々を運び入れ、船に荷積みしぬ。竜は己が熱のため溶けぬ(『ベーオウルフ 附 フィンズブルフの戦』厨川文夫訳 岩波文庫、1941年、pp.41-42.)。

(Benjamin Bagby. *Beowulf* (Charles Morrow Productions, 2006.))

アイスランドで14世紀に作られたとされる『ヴォルスンガ・サガ』に「**シゲムンド**」と同一人物と思われる「**シグムンドル**」が登場する。

- ・6年間、母の胎にいた子供ヴォルスングル。
- ・ヴォルスングルと巨人フリームニルの娘フリオーズの間に生まれた双子シグムンドルとシグニュー。
- ・魔女に化けたシグニューとシグムンドルとの間に生まれたシンフヨトリ(古英語『ベーオウルフ』では「フィテラ」と呼ばれる)
- ・シグムンドルと彼の三人目の妻ヒオルディースとの間にシグルズルが生まれる。彼はシグムンドルの剣を打ち直し、グラムルという剣にする。彼は養い親のレギンから、ファーヴニルが宝を独り占めにしているという話(サガ)を聞く。
- ・ファーヴニルを斃し、レギンに頼まれて、その心臓を焼く。焼き加減を見ようとして指で触ったが扱ったので、その指を口で吸う。

『ファーヴニルの言葉』(*Fáfnismál*)

末期の竜の科白「若者、おお、若者！ どこからお前は若者として生まれたのか？ お前の一族はどのようなものか？ お前は自分の輝く剣をファーヴニルで紅く染めた。剣は我が心臓に刺さっている」

シグルズルは最初は自分の正体を隠すが、すぐに自分と父の名を告げる。

<伝説の鍛冶ウェーランド:エッダ詩『ヴォルンドルの歌』とその足跡>

鍛冶ウェーランドは、ドイツ語で **Wieland**(ヴィーラント)、古アイスランド語で **Völundr**(ヴォルンドル)と呼ばれ、ゲルマン世界に広く伝わった伝説の人物である。

◎『ベーオウルフ』は、自分の胴鎧を「ウェーランドの作(**Welandes geweorc**)」と呼ぶ(455行)

◎古英語で書かれた詩『デオル』(詩人 **Deor** による懐古の述懐)の冒頭にウェーランドの悩みが語られる。「ウェーランドは深紅によりおのが実への迫害を知った。心の強き男は 苦難を味わった。哀しみと切望が、そして冬の寒さの迫害も彼の連れとなった。ニーズハド王が彼を枷に、しなやかな臍を縛るものに、このよき男を嵌めて以来、しばしば悲しみを感じたものだった。かく過ぎ行くぞ、かくあるべきものは。【**Weland him be wurman wræces cunnode, an-hygdig eorl, earfoþu dreag; hæfde him to gesiþþe sorge and langoþ, winter-cealde wræce; wean oft onfand siþþan hine Niþhad on nieda legde, swancre sinu-benda, on selran mann. Þæs ofereode; þisses swa mæg.**】

<イングランドには彼の伝説を伝える遺物が多い>

- ・先史以前の墳墓を「**Wayland's Smithy**」(ウェーランドの鍛冶場)と呼んでいる。(アングロ・サクソン時代に残された特許状(土地所有証明書)には **Welandes smiþþe** という言葉が認められる。
- ・フランクの小函:ノーザンブリアで8世紀に作られたと見られる象牙の小箱には、明らかにウェーランドの伝説と見られる絵が描かれている。
- ・リーズの教会に残された十字架の柄の部分には、ウェーランドが空を飛ぶ絵が描かれている。(スウェーデンのゴトランド島には、ウェーランドの伝説を描いたと思われる絵画石碑が立っている)

【本日の講座で言及した国と地域】

